

腸内環境改善 アドバイスシート

氏名: 永塚 優子 様

検査日: 2024/9/20

検体番号: REG0000001754

リーディング担当者: 大滝 初美

腸内環境の鍵を握る5つのポイント

- 1) 多様性 (何種類の細菌を保有しているか)
- 2) 多様性指数 (特定の細菌の偏りがいないか)
- 3) 悪さをしそう細菌の割合
- 4) 良さそうなことをする細菌の割合
- 5) その他の細菌の割合

今回の改善ポイント

ビフィズス菌が高すぎると便秘傾向になります。便の滞りは悪さをしそう細菌が増えやすい環境となるので改善が必要です。小麦や大豆はビフィズス菌を増やす要因となるので、控える方が良さそうです。ヨーグルトも頻度と量を減らしてみましよう。また、虫歯菌はじめ、口腔内の細菌が多く検出されていますので、口腔内のケアの見直しもしましょう。食物繊維は水溶性を意識してみてください。

前回からの変化

保有率や平均の数値に関しては本検査を受けた1031名分のデータに基づいています。食事のデータに関しては、1809名分のデータです。

1) 多様性

多様性の数値は、あなたの腸内に棲息している細菌の種類数のことです。本検査では0.01%以上の割合の細菌がカウントされています。100種類保有していると安心です。多様性がある腸は対応力が高く、悪い菌がやってきても退治できます。多様性が低いと、肥満などの生活習慣病や自己免疫疾患、胃腸の病気や、がんのリスクも高まります。多様性が既に100を超えている人は、どのような細菌が検出されているかを確認しましょう。

平均は
79.6

私たちが食べているものが腸内細菌のエサになっています。食べている頻度の低いものや食べていないものがないかを確認し、それらを摂る頻度を上げましょう。バチルスという細菌は多様性に貢献することができるという報告があります。多様性が低めの人、バチルスを増やすことができる食事項目を摂る頻度を上げましょう。

あなたへのアドバイス

111種類検出されました。平均値より高めです。どのような細菌があるかを確認したところ、悪さをしそうな細菌の種類も多く検出されました。

バチルスを増やすことができる食事項目

- ・植物性発酵食品
- ・大豆や大豆製品
- ・オリゴ糖を含む食品

2) 多様性指数

多様性が平均の80種類の場合で4.2が平均値になります。偏りが少ない人は多様性指数が5になります。特定の細菌に偏りがあるかを調べるには、細菌の割合で2桁の%がある細菌を確認します。

腸内の特定の細菌に偏っている場合は、その細菌が増えやすい食べ物を頻繁に摂っていないかを確認してみましょう。

偏りがみられる細菌は・・・

今回 5.01 でした。2桁になっている細菌は2つありました。
Bifidobacterium adolescentis 14.18%
ビフィドバクテリウムの平均が3.87%に対して、14.18%は高い値です。ビフィドバクテリウムが高すぎると便秘になる傾向があります。

Bacteroides stercoris 13.57% です。
バクテロイデスの1種です。この細菌は短鎖脂肪酸を出して脂肪の吸収や燃焼をさせるやせ菌です。欧米食に偏りがあるとバクテロイデスに偏ることがありますので、お食事の偏りに気をつけましょう。
バクテロイデスはいわゆる日和見菌で、クロストリジウム綱の細菌や乳酸菌群などのバランスが悪いと「悪さをしそうな細菌」になってしまうこともあります。

☹️ 😐 😊
3 < 4 < 5

3) 悪さをしそうな細菌の割合

悪さをしそうな細菌は、
ポルフィロモナス、フソバクテリウム、プロテオバクテリアです。

ポルフィロモナス

保有率95.93
平均3.32%

ポルフィロモナスは歯周病の原因菌が仲間におり、腸内で高い割合で検出されることは、口腔環境や上部消化管にトラブルがある可能性があります。

ポルフィロモナスを抑えることができる食事項目

- 果物
- オリゴ糖を含む食品



フソバクテリウム

保有率25.90
平均0.32%

フソバクテリウムは口腔内では多く棲息する細菌であり、大腸がんの病巣を好む仲間がいます。腸内で高い割合で検出されることは、口腔環境や上部消化管にトラブルがある可能性があります。

フソバクテリウムを抑えることができる食事項目

- ご飯は玄米や雑穀米、パンなら全粒粉
- オリゴ糖を含む食品
- 魚以外のオメガ3不飽和脂肪酸摂取（えごま油、アマニ油、チアシード、くるみ）

フソバクテリウムを増やしてしまう食事項目

- 自炊以外の外食や総菜、加工食品
- 飲酒



プロテオバクテリア

保有率99.90%
平均2.13%

プロテオバクテリアは大腸菌、サルモネラ菌、カンピロバクターやヘリコバクター菌などがこの仲間です。高齢者やがんの患者さんなどで、種類数値と割合が高くなる可能性があります。

プロテオバクテリアを抑えることができる食事項目

- 植物性発酵食品



今回のあなたの検査結果は

ポルフィロモナスが平均を上回っています。種類も9種類と多いです。口腔内の細菌ですので、口腔ケアの見直しをしましょう。もししっかりケアをされているのであれば、上部消化管系に不調がある可能性があります。

プロテオバクテリアも平均を上回りました。こちらも9種類と種類数が多いです。この中で気になる細菌が検出されています。

Bilophila wadsworthia 0.27%

高脂肪食によって不調を呼ぶ細菌です。

4) 良さそうなことをする細菌の割合

良さそうなことをする細菌は、ビフィドバクテリウム、ラクトバチルス、フェカリバクテリウムなどです。

善玉菌の
王様

平均3.87%

ビフィドバクテリウム

ビフィドバクテリウムは乳酸や酢酸を出すことで腸内を酸性に保ちます。アレルギー症状の緩和、感染症腸炎の抑制作用、ビタミン産生などを行っています。

ビフィドバクテリウムを増やすことができる食事項目

- ・動物性発酵食品
- ・大豆や大豆製品



長寿菌

平均10.76

フェカリバクテリウム

フェカリバクテリウムは酪酸を産生し、腸内では抗炎症作用もあるとされる「長寿菌」です。食物繊維(水溶性)を意識した食生活では高い割合の傾向があります。

フェカリバクテリウムを増やすことができる食事項目

- ・ご飯は玄米や雑穀米、パンなら全粒粉
- ・食物繊維(野菜や海藻、キノコ、豆やナッツなど)
- ・果物
- ・植物性発酵食品
- ・大豆や大豆製品
- ・水溶性食物繊維が豊富な食材(海藻類、ネバネバ食品、ごぼう、果物など)
- ・オリゴ糖を含む食品
- ・魚以外のオメガ3不飽和脂肪酸(えごま油、アマニ油、チアシード、くるみなど)

フェカリバクテリウムを抑えてしまう食事項目

- ・加工肉(ハム、ベーコン、サラミ、ソーセージ)
- ・自炊以外の外食や総菜、加工食品
- ・飲酒



強い味方

平均0.79%

ラクトバチルス

ラクトバチルスは乳酸を出す乳酸桿菌で、腸内を酸性に保つ働きがあります。免疫力向上、精神の安定、脂質や糖質の代謝などにおいて、他の菌の働きを補完しています。

ラクトバチルスを抑えてしまう食事項目

- ・パンやピザ、麺類、餃子などの小麦製品

バチルスはラクトバチルスと相互関係にあるといわれています。乳酸菌との相互作用で、腐敗菌の働きを抑制するとされています。腸内細菌の多様性向上に貢献できることもわかっています。



今回のあなたの検査結果は

ラクトバチルスが平均よりかなり低い値です。ラクトバチルスは脂質や糖質の代謝などにおいて他の細菌を助ける働きをしています。この細菌を増やすことで病気の予防に繋がります。

フェカリバクテリウムも平均を下回りました。抗炎症作用のある酪酸菌で免疫力をサポートできる細菌なので増やしましょう。

ビフィドバクテリウムの1種で高い割合がでています。サプリメントか何か摂られているでしょうか。高すぎる値です。

5)その他の細菌の割合

平均を超えていたら内容をチェック



ストレプトコッカス

口腔内の常在菌！
腸内ではマイナーな
常在菌。



クロストリジウム

とても悪さをする菌もあり、
加齢によって増える細菌。
免疫の暴走を抑えてくれる
強い味方の菌もいます。



バイヨネラ

口腔内では歯垢の原因菌！
近年では、アスリート菌と
いう説も。

デブ菌 vs やせ菌のバランスが崩れていたらチェック



プレボテラ

他の細菌のバランスによって、
働きが変わる！
加工肉と飲酒に注意！



バクテロイデス

やせ菌だけど、
多すぎると病気のリスクが！



ルミノコッカス

デブ菌っていても、
栄養をしっかり吸収できて良い！
でも増えすぎるとそれはまた…

標準値から外れていないかをチェック



ユウバクテリウム

まだまだよくわかっていないことだらけ。
でもわかっていることは、
一つの菌種に偏らないほうがいいということ！



ラクノスピラ

高すぎると高血糖！？



エクオール産生菌



アレルギー抑制菌



美肌菌

あなたへのアドバイス

ストレプトコッカスは口腔内の常在菌です。平均は超えていませんが、虫歯菌が検出されています。口腔内ケアの見直しが必要です。

Streptococcus mutans 0.03%

クロストリジウムの割合が平均より高めです。これは加齢によって増える細菌です。

クロストリジウムの中に気になる細菌が見つかりました。

Clostridium lituseburense 1.53%

肝臓に負担がかかっているようです。低くない値です。

食事アドバイス

本研究所の食事データより、腸内環境のバランスを整えるために有効なお食事を選びました。

食事選びのポイント

今回はラクトバチルス、フェカリバクテリウムを増やし、ポルフィロモナス、プロテオバクテリアを抑えることができる食事を選びました。ビフィドバクテリウムはこれ以上上がらないよう配慮します。

摂る頻度を上げるもの

玄米(ご飯は玄米や雑穀米)
植物性発酵食品(キムチなどの漬物、味噌や塩麴、甘酒など)
水溶性食物繊維(海藻類、ネバネバ食品、ごぼう、果物など)
オリゴ糖を含む食品(ごぼう、玉ねぎ、小豆、てん菜糖など)
オメガ3 不飽和脂肪酸(魚以外にえごま油、アマニ油、チアシード、くるみなど)

摂る頻度を下げるもの

小麦製品 (小麦やパン、ピザ、麺、餃子など)
加工肉(ハム、ベーコン、サラミ、ソーセージ)
加工食品 (自炊以外の外食や総菜など)
飲酒
高脂肪食

検査は検査後のアクションがとても重要です。
今回のアドバイスを基にあなたにあった腸活で変化を実感してください。

今回の判定理由

多様性が高かったためA判定がでていますが、悪さをしそうな細菌も多いため、良い環境とは言い切れない状況です。